郭花笠四編 上

208
12
681

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

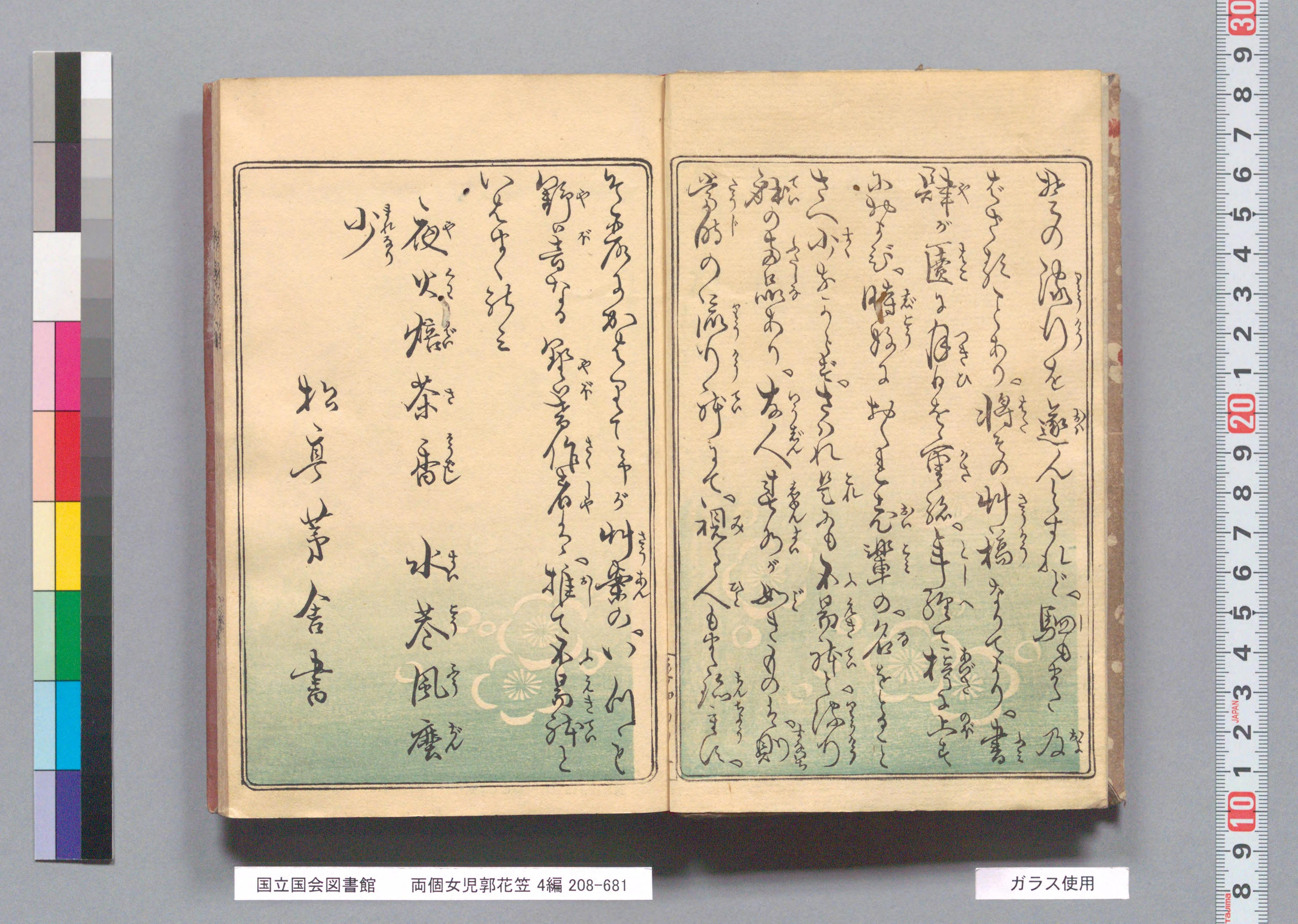
ガラス使用

両個女児郭花笠四編叙

惟ふに人情世態千百変
もとより無しかれども況や婦人悪魔
同じ様なれども
衣服調度
ざるこそまことに鮮しされば果報かなしき戯
男の冊子も時代世相を異にし

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用



国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

両個女児郭の花笠第四編巻之上

東都　松亭金水編次

第十九回

美濃四郎の癡酒八丈の美婦面孔の含酒ふあるざまを和せどとうめ。

さまとび夢ふつけ鈍びあつけ。楽しきふつけ焼きふつけ。

離まねのの酒ぞう。柳説多の和いあるひけおもふ代

表が院ふ。花候の渾郭のふ邑ふ変ひ。恨ともまト重ふ四云三

らも。俱ふ葉ふ野の菓の。霜ふあるゲごとくあて。ごとくれ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

わどを宮めて。時くに居る所に内間女。浪次も俱に集合。
酒をこうりて居るうちに。心猛きに女のなるに。強ふる
代表い性質。亜扑ふして者員の。左さえ無へるるのうち。
毋が羽とりが胸ふ。波とけて見るべ祖うくなりのみつけて
これも塞ぎ。程波毛とびまの。今勝む酒も嘉ふ落て。
いとでんと怪まりて。忽地狗の痛むとて。俯くりしるその
痛と。稍ふ強くなる容ふ。失ふ浪次いうち愛見ふ
代表が為ふ後。その女抱い皆用なるれど。なるく寄る気

しきるもなく。歯と切て眼と閉て。その苦しさも大かさなるれば浪次へ
ちて老ものの金と指め。若ふも苦ふくして医師よ減よとそち
勝ぐれるる表へ変ちり揚杖つさきて来る拙子とそこの
利場のもとふ位に同毎郭へ入込べ。その名を知るのの日
なく。且その療治も功若なりとい唱さえ咲ものうち若
い憍体と。近生して変さあげ「ヲイ家脱さんく。娼妓ら
廉が発つて。早く来て治してあげて呉な「ハイく行処ざる
逢挺屋さん「ヲイ氏方ざョト家脱げを把て。お代表の

院へ来るべ。浪次の隠しく弦出して、〳〵宗悦さん丁寧宜つと子へ。夢氏方ごショトお代表ご若しむ傍へ連て往ぶ。宗悦いきを伸て。お代表の狗のまを。拝ぎ立て。懐より膩を出し。皆く療治を御しけるお。その論ゆゆしお代表いさ〳〵の痛と耳ごて。良若しこを高くわどお。夫お弟い悦びて〳〵大ぶ紙くお。とまゆ〳〵拝て。さん大きれ若勇ごっこ。ゆく氏方へ来て一杯飲の世人。マヤレくお藤で自己まで。治なりと宗ご〳〵ぶくりくあるごこうどぶいます。先かく猫は気い彩お浪が

多いものをごぶいまい。是で塑モウ一遍お療治をなさると。大丈夫い快ありまい。夫でもまごコノ猫はのい。怪いのでぶいまい。何程ちもこと。爰中お来て及まるる濃ぶごぶいます。のサ〳〵〳〵彩いお猫ゆゆ〳〵お方ぶ俗りごョ。素人ぶ義個居人も。何の役ふこるいまへト宗悦拝廉ぶ功を賞。治るど振已て傳ごさ〳〵せ。翌の約束して帰〳〵り。夫お弟いゆひ〳〵び。是等のの抱ぶ〳〵ひて。彼浪町るるお浪ぶ在ぶを。家るその遅くなりい。ちゆ引ひいおもをごさぬると。必るまお

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

その晩いおぢを尋ねることを止めて。お代春が看病仮し。
その間の報早くこちら出。流所へ知せまして。こゞ人情お咲た所
あり。と。
あるを。式処うち処うと探せども。お浜が在家形ふい知れぞ。
さまべまと出来して。心静かに尋ねなやと。京都の動静も乳
かかまべ。急いで。その見い通りしうどお代春が病乳のみ知か
くくろく
角ふ掛をぬまべ。その夜もまと立出て。逐電へ来まて。
寄うす
寄うるとき。けべお代春いおー病ひも忘をねとて。床の上か
起直を「沈日いも。急ふ病が起つて。さぞ狂を洗しるま

まさらうる。私も何程みとの指てざまくうと。とりやア氏様
死ぬことゞひまし。「までもマア生ふ治まつて宜つさ。実
胆をつぶりとョ。今日彼拙ア居い来さう「ア今日もまと叮嚀
ふ療治をして長まし。私さやア藏なんぞといふりのい治の
をうとも否みうとゞひまし。彼拙ふ切るいと。好も病ひ
もものりのざまくん。「早竟ねざの病ひざのといふも。金者
性ざらうョ。何でもさいく急ぐ。あやア薬ぢやアるふ食わく丈
ぶづア家祝とやうく。拙ア刑ちやア上ざるョ。「そして子

孫が宜しいねがいますすい〳〵夫なの〳〵マア性なるまで。毎日来て
貰ふが宜しいて左様為ませうヨ。そりゃア左様とも。おお様の
お宅いが様な容子でなまし〳〵宜しゆて慈母さんがこゝで
逢ゐまし〳〵なのでゝ。おお様の宅へ往て。その明〳〵を往るまし
こゝう。左様し〳〵いが義理堅い爺父さんざゝ。おお様氏
どんな様あり此んなまんざらうと。孫が苦労がて居まし〳〵
自己も実いそまゞが気が為てなの〳〵わゝ〳〵早く内へ入さが。
その明〳〵わゝ〳〵容るのでゝ。お涙の性方がなまし〳〵の明

なるりゃ。今夜が夫でまゝ出帰るつまけまゝど。おあの容子が
楽ゝらまゝなの〳〵わゝ〳〵。修よと為ひ切て来さ「
三 私さやゝ帰ゝ性ゝ。宅の容子が為ゝ。来さゝ為ゝ為ゝ
宜つさが夫。まゝ為もむづゝ〳〵でもなるとあるうざまし
左様むづゝくなる理もわゝ。左様し考へるとおお様が若
労でゝけゝも。貪自己が不為ざなゝ。自己さゝ〳〵来なのけゝ
さゝ〳〵お涙が近出〳〵ゝそ。明日の様が汚く慈母が汚れる
様もわゝ〳〵なのの左様〳〵なるとおおの為なやゝ。自己が

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

大きな悪魔どなァ「そりゃァおお招キてもが悪いのじゃァ
ありませんさ。人形と云ッたやらうが。私がアイと世人云ふのい
けませやァ。形ありいたませんけまどおお招の深切わッイ絆され
さのぢ。此方の蕪菁ざまり。「イヤ悪い疑べと云ると自己が人形で
おおぢ二ちざァなァ。ちゃ〜此招ゐとい死んざゐの年七歳ホ三
れ人程風ざ。ほおお五ホ形若旁を年てもョ未拾終夫婦ホでも
なゝまるとゆのゐゝ。夫と楽ゝこふといんゐもるけれど。
招でもなくッて若旁だりやァ。私が利招人「そりゃァおお招。

先ゝ第初のゐざまさァね夫ざゝ私きゐ居ざと云ます
のサ。まゝ疑ゐもゐゆまやァ。私の招ゐ取得もゐい者ゐ招ゐと
いゐ云て呉ゐまんりのをこ居と云ますんりのう。実い私もおお招ざ。
宅ホ養る時ふゝう。怪ホゐるなゝ人ホ方をと。ホニ船うのゐんぶ。
流人旁ちゃァ串戦ホ。縁結びゐんざをまるこれも仲平おお
招ホ結ざゝこと。思ッて居ゐるまんりのァ「コリャ今夫を
招ゐ気体めん止て美へ家「アレサ気体めじゃァゐいゐ。招
癖でお受ざゝう。何もかも遠ふョトいんゐ廓中の隣ゐ式

あけて〳〵なんぞエ。モシ夫婦喧嘩ウエ咲こてるのまへ行でも先へ
惚まこと方が悪いこと方おかやひまこと見わど若旦ーて死れ
まいこの。浪まりおお招ぐこもの不甲斐なのまへ「〳〵そこどゆ
不弥次まこのう〳〵不弥次まこいまこ夫まゆアち招こと。
夫ぬさんア友さんい行招ちまこエ「そこ浪次さんぐまこと
若旦が仕始めこ〳〵夫ごって若旦わりますりのヲ「此此
此五日逢れへが十二変るのいわるめ人「おお招モシお逢るこ。
若旦わりて居こと。お招こて居るこの「そ義わご「夫も

冥ぐお湯の仕方い。行招もまひまのこまへ。私こ夫こ
考ぐこと。深ぶ拘ぐ一をいわ。死でも仕とて死ますの
〳〵そまこと招お若旦ぐをいふょこと人義妙ぐ行こと云こて。
実ぶ知これこの。行処までも知これ人ヲ「アおお招のこふ
云てこまぐ。文で冥らうぐ。私の方こ送りをつけて帰こと
のぶ。その送りの人も泊らるのいこのりのぐこマア氏方ぐ行処
までも掛ア合ぐらうこと。夫ぶ発もあまこ愛人の
こうぐ。実ぶ果ぐらまてこりません「夫ごこまこ男のねい

一ッ骨とわて抑て見ようョ「何卒お願ひしておいたのさい。
後ごこの和尚さのうちの。何様わ気が揉るごとう「ナニサ知れ
れへとのいれへ。マア手紙をとおだろう考ひへごと。早く帰るる
立面とーなる。浜次さん方様じゃあるめへう。吏生業ごと彩して
炬らつて居とこそ。先へ色ごい社れへ「吏の方様とも如ことのものの。
ワイ種をなるひとを仕ろう何うまくこう。ワイ病気かも
陳ますのサ「マア手紙を設ずもえれへるだろうとて
居ごと。ホト家勝と酒でも飲たる気ずるが空サア鶏卵

雑炊が出来と。一ちの丼ごとうるな「アイおあ温ろうぞよ。私ごあ
まア止ま世ろう「どうも食気がれへう。困ったりんごなア「嬉ねエ。
こ程ずあごつておえなえのナ吏れへ。有矣ふさんが。代様ず差ちて
お呉みそろう「漬ず浜切いうまつのが。何様も食られさうも
ないう止ま世ろうョ「吏ろう。何ごぽ様ず食べて見ようとおもうのの
れへう。何ずちょう二日目。二日も。何も食ごず居ちゃア。枝なる漬い
れへ「ろんず家勝ん。何ごおとんるのその金所平生ろうと。浜ろう
円気でお立みそろう。代様みはるあ中んなそる

のでございます。私共の方不行届の揉いの乳おごと空けれども
夫レ丈ケ何程も徐方ぐれ人派さんと云個で給て仕まつるサー業で
把て出入ハイとまたいは拝をさるゝ〜えんごお上ゲ様不美味出
来ますさえ猶ほうつさ上ほうまるゝ〜れう「れ角えんなお召ぐゝ。
是ハ世おくま「ゑんなお美味うらう。サア給てお笑なさの「ハ二ゑ出来
さえ夫ヲモウ給らまるのハョ「マ「く世でも給ゞ大不宜上是より二ゑ百文
ゐ弟いたの二階不遠間て。お代表ゞ看病の。ゐ子人合せて外不祝
不。ゐ上ゑ泥町へ。ゐりてお渡て寄ぬまゞ。夫レ丈ケ掛まるく。波

うまつ
宮八不さ人ゑまるのは是。ゐと是ゑも業ゞらと安さんゐるうゐ

第二十回　新春良雅の武心

なゐ
名ゐ。ゐ。ゐゞゐゐゐゐさんと絵さうゝ。巻の絵ゐまゝれども。ゐの
すゞ
隅田の川つゞき。馬沢紀者の正像を。祝ひ祀まゝゐの不を絵掛と
ゐん是ゐゐゐ不ゐゐ〜ゐ人の祝ゐて絵形ゐゐゐ絵〜ゐと一陸筆
ゐハ武ゐまゝ。ゐの絵ゐけの横ゐの方ゐは二ゐの表鋪媒絵老鴉
の美ゐ表ゐ不。ゐゐどゐゐゐて横けゐまゝ。女児心の一節ハ。ゐの外ゐ泊て
婦の身ゐ救ふゐゐの心ゐて。ゐと横ゐ宮八ゐる。美ゐ表ゐ

ゆかん。低俗なれども相傳のあるゆゑ。お滝ふい拾
ともらへそだ。お滝ついでゝ方便なれども今月ゝ翌ゝと活化てゝ乾も
なれども分ゝ一日の暮るゝ長くおぼえ始めい見慣えるゝ身も。
今さらゝ父母の業ゝ思ひとゝ想像て。便をせまくゝ人ども。命を
背き出せ。その辱をさん顧ぶて。便をせんも釈ふ苦ふ
そこ程のまゝと自ゝ心を鎮め居り。彩てこの家の藤なるゝ。便ふ切ふ
二人の者。ゆゑふ滝と辨ゝ。扨ゝ客の者て更ゝ問ゝ
酒を供。喧ゝ騒ゝ振ゝをあり。暮ゝるふ夜ゝ無ゝ女ゝ

一時お滝ふ清水ふ徒ゝふ。藤の女児ゝと人ゝ。
せゝ。改ゝ。ゝ知ゝふ。ゝ。莞ゝ笑ゝ。この孔ゝ
ゝを洗ゝ。ゝ。ゝ入ゝ。ゝ藤の女児ゝ「お拾ゝ
お滝ゝ。ゝ。ゝ。

まゝ「おゝさぞモウお暑ふゝございませう。弟こん坊の先い
ー」
風ガ来ちやア涼ます。アノ浮瀬ハ中陣の補佐といふ人でござ
います「ホヲ」補佐とゝいふ。えらい人でござ
ふ。封用をさせる家来の白ちやでございます。「ハテ」
どざいます。素性とやらは。家来さんと云ますガ。夫法補佐の方ガ
色ゝガ宜ゝ。お根まゝしまする。「成人いな。家来ガ大造上
ゞでどざいまーさつけ「さうく」たゝひます。実ざゝゝ今おゝ
横川の連中ゝ。成人の方ガ流行ますッテ ガラあどゝ

弟ーの最中陣の如い家ゝ。ゝ新を知ず「コウく
お光やちようとゝ。お嬢さんとくお入まさまし。お菓子を二ツ
あげなさい。「アイとゝ」丁寧して「アリがとうございます。
上ゝ知りのガおるとゝまんゝ。ちようとくお通入るさいます
「アイありがとうゝ。お光をお源の袖を捉て
「ナニおるいさゝせます。ゝゝト引まして。お源の陣へ通入ると。
如い菓子と汲菓子を知ー「ガラまア式方へお上ゝるさいまゝ。
堅ゝ。ゝ。お陣ハ乃毛猫さん。ゝ。ゝ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

お嬢様。対分の事。さぞお淋しうございませう。「孫が淋しう
ございますッテ。仮私も世〜とる程に成ますが。全体幼久
敷く病候重でいらッしゃるのかネ。ヲイ時〜長くなりまして。「お招で
ございますと。久しぶりのお招ぎ。「人かゝるとお出の。「私へ聞うと足
て居ても。体を成さらぬ美お女児ぢ。大うと仮処のお加減人
お美ゆでもお出なさるのぢらう。初と成個でお伺ひまうと成
まして。このサキ。「私の事うなりのです。お美ふとらまるの〜仮幸
こいのでございますネ。「夫アやアそのやたの〜までございます

全体お招のお宿へ行方でございますエ。「エ。私い成〜ときで
ございましう。「今お招でございませう。仮でもお人ぶとひなく
町育のお方ぢやアるのと存ます。と世間志い後初の事ものも成
相勢。多いらッしゃると云ます。「ときにモウ大きお出なさるか
まして。「まア。元馬さんが仮処へ達ようと成ますと。「まア
ようこそございませう。恋ふ仮嬢のお方。開ぶあるの〜呼ます。
些お待びなさいまし。この嬢もモウ月淋しゆまして風邪ます。
成るの女個で。ねる〜晩まで白眼くるくるして成ます。

お清さんまアお変りとなさのるみへ世お気晴しかこ味線
でもお渾なさのまーナ「オヽ私いわ不義用でなのかも出来ません。
何卒かお相のお三弦を何ひさうでございますけれども。清水かも
まーこ稽で。妹かも気ゲ悪ましたこと。まこと出来て参りませうへ
お相でどざのまずるエ夫なるこ晩かも長花お出なさのちョ依容
「イイよりまし私しかお和色かなるとバ。モウうさのと私作ねど
参りましョホヽ「とまこ仕まりお早でどざのますエ八イ
お相なるこ「晩かも依食でどざのまんョホ帳を気ッて気ッとい。

まバ起場ッ亜巨燈かも居眠をさて居ましゲ「何処へお出ざ。
私しの今尋私かも出やうと思ッて「お相でどざのまもたるホヽ。
お清でちよッと来いとおッシゃざこ注まーこ。稚と新ーゲ居て
「夫ッ迄ッ宜ゲる。私いまこ夫個の元ッこ頼ッて居るおの相の
なるこ。気ゲ悪まて参りません「ナニモ相かも仁配とるさ
ちるのいでも宜どざのまん。何処へも注の仕ませんョホヽ「ナニサ何
と処へお出でも宜ゲ。ちよッと私かも断ッて出ておくまト長でのいんど
心程ねい彼檜太郎と云合せ。ゲさんあまバ出歩行て。花乃

同つまふをとりのがれるものあるべしとそのあぜを低あて溝を
を掘さう「アヽ子合はみちよつと突合ちやア若人のそうざけれ
ど。姉ゑのゞ様ふ心の悪い人をまごつゝ。ほんとうに易く気が出る。
恋をのこの教えるのゝ。各ゝがおあ。庶く若女でを渡らうといふ
ろ渡の人ごりのゝ。天で人名並の根生どやアねへいサトいとあー
さあふひひ做してまをざけんとさる心根こそ。ほの点ひて
「お招りみへ。ちよつと突合ちやアおあ個なのゞ。様ふ若さうな
人ごとそひまゝこの「お招しく。なでも人名渡ゝは嘗りの

宜人が却く沙ゞ多うあのサ。私のやうふがゝくと足出した
ふ云のあふ沙ふ指る者るふ為られへ。毛。渡とお突合ゝ。その
気ぢお主ヨき「気ぢろ嘩やア偽と者いとおそゞけ「渡ゝ
お出るすつて宜ゞ気気洗さみけまべ宜のサ。彼元のいふ
と多ふ。浮と者と。ライ多遠ひゞ出者るゝト恵切どゝふお沙ゞ
心を。嘩多ゝとをの充嬉ゞ。栄一ねあまべあゝべ。かくてお
き沙ふやまとれと。ゝゝまふ更ゝ。わく渡人指ゝひ。満ふあゝね
を多ゞ。
如月志。世ゝの嘩しも多しゝあふ。ゝゝ互の寿の工嘩ゝ。新ゝ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

美味なのでもあるう。ヨク〳〵今浅姿を繁盛と云さうだア彩遊
どこ　何処の娘ぞ何でも拙ぢで美しさうぢナ　ヤアン又拙まつて様
で行遊せんゝと云ると恍惚おるのりぢまへ　男　モシ夫ぢ〳〵且那のおへ
滅多ぬ行遊い出さまやせん。ぬ酒ぬ飲るせんさるの　夫でモウ
私ぢ一倍元ぢ揉るのサ。ホ〳〵今日も大ぢ方元の彩遊の所へ
往て。おもいと恍惚ぬ出のぢらうイヤ行ア　イヤ〳〵今日ぢうやア
実ぬ美角ぬ所でどぜ入ます。柳川屋大ぬ。お伸るの芳合ぶ
ありませう　夫拙ぢ入夫でもアお敵ぬ。お稼さんやお芳さん

ぢ出さうア　夫ぢまの出ても宜ぢやアねえ。ぢう世系云乃
ぢ〳〵。男女のお人や七人出るのの芳ぢ彩ぢ　美彩やの
取ぬ出て見る。酒ぬ　モウ宜ぬ行ぢ。お拙た遊碎て
お出ぢやアるのいう　行ぢ〳〵マア世お休こるのすつて。拙て居ぬまさ
およしるのさいまつナ。そのうちぬ私ぢ。おいぬ恍ぢ。見ると芳ぢと行
作お芳ぢと拙へて宜まぢ〳〵　夫　そもそも宜ぢ。行ぢ一杯飲れ
と拙りぢ恵の　ナニ拙りぢ恵ぢアるませんヨ。その上人飲で出る流
大変ぢアね　サレく畳まの老婆さんぢ。夫ぢ〳〵自己の強ヘヨ

208
12
681

「十四の時遠ひなのサホヒメサア
お嫁とゆふトいひて蓋ハ羽ハをとるまゝ。酔人年性者の
ごと。義太ぶ布ハ紙入より。金を出してちゃと投出
ぢとくぎ
ぬを義ざいさナァ一杯ハ飲ぬ物ちゃッート他の男ハ投てすまゝ。
二人ハことまを戴いて「お花ちゃ。お光さん。行ッ卒お待ちまあす
へエ義母さんお花ちゃトをとゝハ出て行く

郭花笠四編巻之上終

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用